

## 医療とクアーハウス

東京大学物療内科  
木暮 敬

## Medical Treatment and “Kurhaus”

Takashi KOGURE

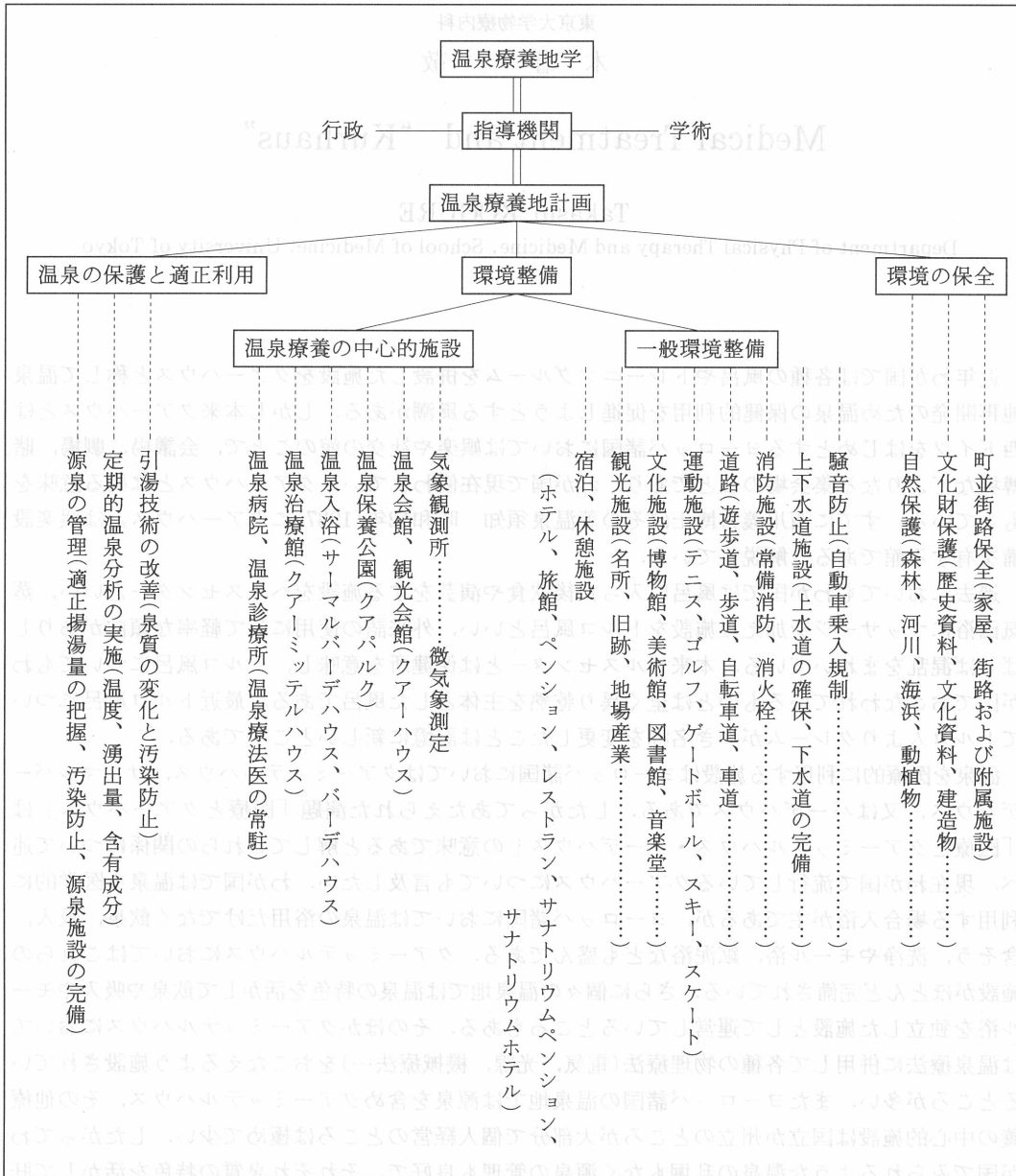
Department of Physical Therapy and Medicine, School of Medicine, University of Tokyo

近年わが国では各種の風呂やトレーニングルームを併設した施設をクアーハウスと称して温泉地再開発のため温泉の保健的利用を促進しようとする風潮がある。しかし本来クアーハウスとは西ドイツをはじめとするヨーロッパ諸国においては娯楽や社交の館のことで、会議場、劇場、賭博場などよりなる集会場のことであり、わが国で現在使われているクアーハウスとは異なる意味をもっている。すでに西川義方博士はその著温泉須知 昭和12年(1937)にクアーハウスとは娯楽設備を有する館であると解説している。

過去においてもわが国では風呂に入った後飲食や演芸をする施設をヘルスセンターといい、蒸気函浴にマッサージを加えた施設をトルコ風呂といい、外来語の使用に対して軽率な傾向がありしばしば混乱をまねている。本来ヘルスセンターとは保健所を意味し、トルコ風呂についてもわが国でおこなわれているものとは全く異り乾熱を主体とした風呂である。最近トルコ風呂についてトルコ人よりクレームがつき名称を変更したことは記憶に新しいところである。

温泉を医療的に利用する施設はヨーロッパ諸国においてはクアーミッテルハウス、サーマルパーデハウス、又はパーデハウスである。したがってあたえられた演題「医療とクアーハウス」は「医療とクアーミッテルハウス・パーデハウス」の意味であると解してこれらの関係について述べ、現在わが国で流行しているクアーハウスについても言及したい。わが国では温泉を医学的に利用する場合入浴が主であるが、ヨーロッパ諸国においては温泉の浴用だけでなく飲泉、吸入、含そう、洗浄やモール浴、鉱泥浴なども盛んである。クアーミッテルハウスにおいてはこれらの施設がほとんど完備されている。さらに個々の温泉地では温泉の特色を活かして飲泉や吸入やモール浴を独立した施設として運営しているところもある。そのほかクアーミッテルハウスにおいては温泉療法に併用して各種の物理療法(電気、光線、機械療法…)をおこなえるよう施設されているところが多い。またヨーロッパ諸国の温泉地では源泉を含めクアーミッテルハウス、その他療養の中心的施設は国立か州立のところが多くで大部分で個人経営のところは極めて少い。したがってわが国でみられるような温泉の乱堀もなく源泉の管理も良好で、それぞれ泉質の特色を活かして肝疾患、腎疾患、心臓疾患、リウマチ、糖尿病など最も適した適応症をかかげ一流の医療スタッフによって温泉療法と共に各疾患の最先端治療が受けられるようになっている。この点わが国とは比較にならない。温泉療養地の中心的施設にはクアーミッテルハウス以外にクアーパーク、クアーハウスなどがありそれぞれ温泉療養に重要な役割を演じているが、そのほか森林や道路の管理、

騒音防止など環境の整備と保全に細心の注意がはらわれている。さらに文化財に対してBaden-BadenやBathのようにローマ風呂の遺跡保存に努めている温泉地もある。現在の温泉医学においては単に温泉そのものの効果に着目するのみでなく温泉地全体を療養に適するように整備することによってはじめて温泉療養地と称することができると考えられている。(表参照)



またヨーロッパ諸国の温泉地には温泉療養医(泉医)が常駐し療養の指導にあたるという制度がある。わが国においてもおくれればながら本年5月現在日本温泉気候物理医学会認定の温泉療法医が全国で245名誕生している。

クアーミッテルハウスとは前に述べたように温泉治療館であるが、数年来西ドイツの温泉利用の傾向として療養だけでなく温泉で休暇をたのしむこと(Kurlaub)がとり入れられている。この傾向はMineral Thermal bad Freiburg やBad Homburg のTaunus Therme (従来からみられる患者を対象とした温泉治療施設だけでなく健康人も休養、保養に利用でき、レストランもある最近西ドイツで建設された総合的温泉施設)にみることができる。わが国におけるクアーハウスと称する施設をみると実際にはバーデハウスの役割が主であり、温泉の保養的、保健的利用を促進するという意味においてはある程度評価されるものと考えられる。しかし温泉の特色(泉温、湧出量、含有成分)、地域特性、歴史的背景、経験的湯治、伝統的適応症などについての配慮に欠けたところが少なくない。またヘルストレーナーはいるが温泉療法医が常駐しているクアーハウスは皆無に等しい、また多くのクアーハウスは温泉所在市町村または組合経営が大部分でありこの点にも問題があるように思われる。現在本来のクアーミッテルハウスの役割を果しているところをあげるならば国立白浜温泉病院ぐらいのものであろう。したがって今後医療の場においてクアーハウスを位置づける場合には上記の事項を考慮する必要がある。

かつてベルツ博士が99年前の明治20年(1887)箱根大涌谷に計画した300haにおよぶ広大な理想的温泉療養地計画は未だ実現していない。

高令化社会に向うわが国においては温泉療養の場としてクアーミッテルハウス・バーデハウスを中心としたベルツ案にみられるような温泉療養地の出現を期待したいところである。

参考までに筆者の温泉療養地案を挙げ参考に供したいと思う。

参考までに筆者の温泉療養地案を挙げ参考に供したいと思う。...